

第2期 羅臼町総合戦略 評価検証表

基本目標1 「若い世代が安心して働ける魅力ある産業の振興」

基本的方向		・漁業を中心とした産業の活性化を目指します。 ・若者が働きたいと思える安定した就業環境の整備を目指します。
地域経済を支える漁業の推進	主な取組実績 (R3～6年度)	・海産物を中心としたふるさと納税の拡大に取り組み、寄付実績はR5年度916,490千円、R6年度524,226千円となっている。また、町内の返礼品取扱事業者数はR6年度末で30社となっている（産業創生課）。 ・知床らうすブランド認証品制度のPRIに継続的に取り組み、認証品登録数はR6年度末で45品となっている。（産業創生課）。 ・R5年度より陸上養殖の検討を進めており、R6年度には陸上養殖のためのポンプ設備設置が完了している（産業創生課）。 ・羅臼高校における水産教室を継続的に実施しており、R6年度には計8名の生徒が受講した（社会教育課）。
既存産業支援と新規産業の創出	主な取組実績 (R3～6年度)	・海産物を中心としたふるさと納税の拡大に取り組み、寄付実績はR5年度916,490千円、R6年度524,226千円となっている。また、返礼品取扱事業者数はR6年度末で30社となっている（産業創生課）【再掲】。 ・水産業、酪農業など第一次産業の安定経営に資する支援として、羅臼漁業協同組合と連携し、継続的にウニやナマコの放流、ヒトデの駆除等に取り組んでいる（産業創生課）。 ・羅臼温泉地区の魅力向上に取り組んでおり、地域外企業による新たな宿泊施設の新築（らうす餐荘）が発表された（産業創生課・企画財政課）。 ・看護人材等を対象とした奨学金返還支援制度を運用している（保健福祉課）。 ・地域産業活性化及び起業支援のための補助制度を運用しており、R6年度は計3者への支援を行った。支援を活用し、遊漁船の営業やコンプ漁体験と宿泊施設を組み合わせた新たな事業の立ち上げなどが行われている（産業創生課）。 ・中小企業融資制度に関して、融資枠の拡大について金融機関との協議を行い、R7年度にむけて継続的に協議を実施する（産業創生課）。 ・スノーピーク監修の「知床羅臼野遊びフィールド」がR2年にオープンしており、R6年度には計60組の宿泊客を受け入れている（産業創生課）。

【数値目標】

	目標値（R7年度末）	現状値（R6年度末時点）
生産年齢人口	2,348人以上	2,345人

【評価指標（KPI）】

評価指標	目標値（R7年度実績）	実測値（R6年度末時点）
ふるさと納税の寄付額（産業創生課）	20億円	5億2千万円
知床らうすブランド認証商品登録数（産業創生課）	10品増加（戦略期間累計）	0品
漁業資源の増養殖又は畜養の検討と試験（産業創生課）	検討数種、試験1種以上（戦略期間累計）	検討数種
新たな企業の参入（企画財政課）	3件	1件

KPIを達成できなかった場合はその理由	・ふるさと納税については、返礼品となる海産物が十分に確保できなかったこと、物価高騰に伴い寄付者の嗜好が変化したこと等により、KPIを達成できなかった（産業創生課）。 ・知床らうすブランド認証商品登録数については、運用自体の協議をしており、新規登録への取り組みを実施していない（産業創生課）。 ・陸上養殖については、R7年度に対象種を決定し、試験的な養殖を開始する見込み（産業創生課）。 ・新たな企業の参入については、水産分野や観光分野をはじめ複数の企業との関係性を構築しているものの、具体的な参入は1社にとどまった（企画財政課）。 ・各種取組を進めているものの、依然として社会減が大きく、生産年齢人口の減少傾向が続いている（企画財政課）。
実測値を踏まえた次期戦略における取組方針	・ふるさと納税については、7億円を目標とし、返礼品の確保やプロモーションの強化に取り組む（産業創生課）。 ・優れた観光のポテンシャルを最大限に活用し、インバウンド旅行者等をターゲットとした世界水準の観光地域づくりを推進する（企画財政課・産業創生課）。 ・オートキャンプ場及びその周辺施設について、収益性の向上や新たなサービスの提供等を検討する（産業創生課）。

第2期 羅臼町総合戦略 評価検証表

基本目標2 「知床羅臼町の魅力を活かした移住、定住の推進」

基本的方向		- 年間を通じた交流人口の拡充を目指します。 - 知床の魅力をPRし、住みやすい環境づくりを目指します。
交流人口拡大事業	主な取組実績 (R3～6年度)	- メディアを通じた夏の観光プロモーション及びキャンプ場や冬季を対象としたプロモーション映像を作成し、SNS、YouTubeなどを通じてPRを図った（産業創生課）。 - 町内の人出不足の解消を目的としたおてつたび事業を推進した（産業創生課）。 - 新イベント「知床らうす産業祭羅来楽」や知床らうす雪壁ウォークの開催を実施した（産業創生課）。 - アドベンチャートラベル向けの高付加価値型のワンデーツアーを3件及び3泊4日の長期滞在知床周遊ツアー1件を新たに造成し、モデルツアーを実施した（産業創生課）。 - R4年度に重要文化財のレプリカを3点制作し、道内外の博物館施設等に貸し出し、巡回展で展示するなど活用を行っている。また、町内外での講座も3回実施している。資料館では重要文化財に係る映像をR4年度に製作し、館内等で活用している。また、R4年度より多言語による音声解説も実施している（社会教育課）。
移住・定住対策の推進	主な取組実績 (R3～6年度)	- 移住職場体験モニター事業として、医療・介護等の事業所での就業体験がついた移住モニターを開催した。毎年継続実施している事業であるが、R6年度は応募者数58名と例年と比較し約5倍、参加者数12名であり例年と比較し約2倍の結果となった（企画財政課）。 - 羅臼町奨学金返還支援事業として、新卒者が町内事業所に就業した場合、奨学金返還を支援する制度をR3年度に制定した。1名の利用があった（企画財政課）。 - 地域おこし協力隊はR3～R6年度まで10名が着任した、任期を終え定住している者は2名、町外転出3名、現役5名となっている（企画財政課）。 - 北海道移住相談会（東京）、北海道移住フェア（大阪・東京）へ参加した。移住支援のほか、移住職場体験モニター事業やちょっと暮らし住宅についても周知し、羅臼町の認知度向上と誘致に務めた（企画財政課）。 - 空き地・空き家バンク事業として、羅臼町HP上で町民が所有する空き地・空き家の周知を町政だよりと固定資産税納付書への封入により行った（企画財政課）。 - 空き住宅の活用等に関する制度として、羅臼町への引越費用の一部や子どもの人数に応じた補助金支給。中古住宅購入・リフォーム費用、住宅新築費用の一部を補助する「羅臼町移住・定住補助金」制度を制定した（企画財政課）。

【数値目標】

	目標値（R7年度末）	現状値（R6年度末時点）
施策による転入者（企画財政課）	10名	7名

【評価指標（KPI）】

評価指標	目標値（R7年度実績）	実測値（R6年度末時点）
観光入込客数（産業創生課）	601,224人 （基準年より10%増加）	546,126人
宿泊者数（延べ）（産業創生課）	37,860人 （基準年より10%増加）	48,028人
修学旅行受け入れ学校数（産業創生課）	15校	10校
移住体験による移住者数（企画財政課）	3名（戦略期間累計）	0名
地域おこし協力隊移住者数（企画財政課）	5名	7名
羅臼町奨学金返還支援事業による町内就業者数（企画財政課）	10名（戦略期間累計）	0名
空き地・空き家バンク成約件数（企画財政課）	5件（戦略期間累計）	13件
空き住宅の活用等に関する制度の創設（企画財政課）	制定	制定

KPIを達成できなかった場合はその理由	・観光客入込数については、コロナ禍以降、順調に回復してきているものの、KPIの達成には至らなかった（産業創生課）。 ・修学旅行の受け入れについては、学校のニーズの多様化、補助制度の見直し等の要因により、KPIの達成には至らなかった（産業創生課）。 ・移住体験による移住者数は0名とKPI達成にはならなかった。魅力的な就業先や住居の紹介が積極的にできていないことが要因の一つであると考えるが、移住の決断は数年をかけて決定されるため、長いスパンでの取り組みが必要である（企画財政課）。 ・奨学金返還支援については、R3年度に制度設計し本州出身者1名の活用があったものの、家庭事情により帰省を余儀なくされ、現在利用が無い状況となっている（企画財政課）。
実測値を踏まえた次期戦略における取組方針	・移住体験事業ではWEB広告等の活用も行っており、R6年度は例年の約5倍の応募と成果があった。さらには、R6年度参加者の1名が、R8年4月の移住意向となっており、効果が表れ始めていると感じている（企画財政課）。 ・地域おこし協力隊については、自治体の課題解決や魅力向上のため制度を活用するものであるが、住居と職をセットで用意できる移住施策の側面も強いことから、積極的に取り組んでいく（企画財政課）。 ・店舗を閉鎖する事業者も増えてきていることから、関係機関と連携し事業継承に取り組み、移住定住人口の増加を図る（企画財政課）。 ・R5年度から人手不足対策として、関係人口創出型のアルバイト募集「おてつたび」にも取り組んでおり、町全体が人手不足の中、産業繁忙期の人手確保策として町内事業所に活用されていることから、継続して実施していく（企画財政課）。

第2期 羅臼町総合戦略 評価検証表

基本目標3 「結婚・出産・子育てをしやすい環境と未来を担う子どもたちの教育環境の整備」

基本的方向		- 結婚・出産・子育てをしやすい環境づくりを目指します。 - 魅力ある教育環境の整備を図ります。
結婚・出産・子育てに対する支援	主な取組実績 (R3～6年度)	- 妊産婦が安心して妊娠と産後の経過を送るための環境づくりと経済的支援として、R5年度に低所得妊婦初回産科受診料助成事業、R6年度には妊産婦健診等交通費助成事業を創設した。産後ケア事業においては、産後ケアを必要とするすべての産婦に対象を拡大し、自己負担を半額にする制度を創設した（保健福祉課）。 - R3年度の子育て世代包括支援センター開設に伴い妊産婦等を対象にした支援プランの策定等を行い、切れ目ない支援を提供している（保健福祉課）。 - 放課後児童クラブ事業を継続的に実施している（保健福祉課）。 - 町内に住所を有する18歳以下の子どもを対象に医療機関にて受給者証を提示することによりその場で医療費が無償となる制度をR4年度より施行（保健福祉課）。
魅力ある教育環境の整備と時代を担う子ども達への支援	主な取組実績 (R3～6年度)	「クマ学習」「生態系学習」「海洋教育」の推進。R6年度はユネスコスクール研究発表会（12月）や鹿児島県徳之島へ行き小中学生との海洋学習の交流（1月）を実施（学務課）。 - 羅臼高校における水産教室を継続的に実施しており、R6年度には計8名の生徒が受講した（社会教育課）【再掲】。 - 創作料理プロジェクトについては、町内イベントを中心に年間4～6回程度出店している。また、R6年11月に東京都世田谷区千歳船橋で開催されている知床物産展での出店及びPRに参加した（社会教育課）。 - 生徒や保護者から選ばれる高校づくりとして、全生徒へのパソコン支給や修学旅行費用助成、海外留学費用助成、部活動助成などを行っている（学務課）。 - 図書館建設にあたり、社会教育委員の会兼図書館協議会を開催し、新図書館の検討協議を行った。また、担当職員による近隣の図書館への視察も行った（図書館・社会教育課）。 - 家読推進事業として、図書館及び幼稚園での家読セットの貸出、小学校1年生を対象としたセカンドブック事業、日ハム事業である「本を読んでファイターズを応援しよう」を活用した家族みんなで読書登山を実施した。また、令和6年度には第3期羅臼町子どもの読書活動推進計画を策定した（図書館）。

【数値目標】

	目標値（R7年度末）	現状値（R6年度末時点）
15歳未満の年少人口	463人以上	383人

【評価指標（KPI）】

評価指標	目標値（R7年度実績）	実測値（R6年度末時点）
子育て世代包括支援センターでの妊産婦・乳幼児相談件数（保健福祉課）	30件（戦略期間累計）	103件
3歳未満児の子育て支援センター登録率（保健福祉課）	95%	79%
子育てママのリフレッシュ事業参加者数（保健福祉課）	80人	14人
放課後児童クラブ利用者登録者の利用率（保健福祉課）	100%	100%
園児・児童・生徒医療費無償化制度の創設（保健福祉課）	制定	制定

KPI を達成できなかった場合はその理由	・3歳未満児の子育て支援センター登録率及び子育てママのリフレッシュ事業参加者数については、少子化により利用者が減少傾向となった（保健福祉課）。 ・各種取組を進めているものの、依然として自然減、社会減が大きく、年少人口の減少傾向が続いている（企画財政課）。
実測値を踏まえた次期戦略における取組方針	・一校一園化により、幼小中高一貫教育の充実とコンパクトシティの実現を図る（学務課）。 ・羅臼高校存続に向け、魅力化支援を継続し、新たに高校全国公募を行い生徒数確保を図る（学務課）。

第2期 羅臼町総合戦略 評価検証表

基本目標4 「若い世代が主体となった知床羅臼みらいづくりの推進」

基本的方向		・町民の「気づき」により、「結束」「行動」「継続」へと繋がる環境醸成を目指します。 ・社会生活基盤と自然環境に配慮したまちづくりを進めます。
まちづくり活動の支援	主な取組実績 (R3～6年度)	・いきいき地域提案型事業を活用し、イベント開催や街並み改善など町民が主体的に取り組むまちづくり活動が実施されている（産業創生課）。 ・R5年度より陸上養殖の検討を進めており、R6年度には陸上養殖のためのポンプ設備設置が完了している（産業創生課）【再掲】。 ・スノーピーク監修の「知床羅臼野遊びフィールド」がR2年にオープンしており、R6年度には計60組の宿泊客を受け入れている（産業創生課）【再掲】。 ・R6年度からの第8期羅臼町総合計画の策定に係る、まちづくりに関する町民アンケートを実施した（企画財政課）。
社会基盤整備	主な取組実績 (R3～6年度)	・NTT東日本のADSL回線の新規受付終了に合わせ、R2年に羅臼町から東日本電信電話株式会社に対し羅臼町内の光回線未整備地区への整備を要望した。R2年度からR3年度にかけ海岸町地区・岬町地区・峯浜地区で光回線が整備され、カバー率100%となった（企画財政課）。 ・R7年度に水道事業の進むべき方向性や財政的な裏付けのもとで中長期的な経営の基本計画となる経営戦略を含めた「水道ビジョン」の策定に向け、既存台帳の整理等を実施。また、温泉の安定供給に向け、既存井戸の増掘や薬剤注入の試験等を実施（建設水道課）。 ・合併処理浄化槽の普及促進事業を実施しており、R6年度は新たに5基が設置された（町民環境課）。 ・ごみの減量化と資源リサイクル運動の推進のため、各団体の清掃活動や清掃イベント等への支援を実施した。R6年度の不法投棄の通報件数は5件となっている（町民環境課）。 ・ゼロカーボンシティの推進に向け、R6年度にパートナー事業者を選定し、地熱発電や温泉熱の更なる利活用に向けた検討を進めている。また、適正な再エネ開発を促すためのゾーニングを実施した。R5年度から省エネ設備の普及のための補助制度を運用しており、R6年度は88件への支援を行った（町民環境課）。 ・地域公共交通活性化協議会を設置し、コミュニティワゴンによる実証社会試験を実施している。この試験を通じて、要望と利用実態の乖離をみて、羅臼町にあった地域交通計画を策定することとしている（町民環境課）。

【数値目標】

	目標値 (R7年度末)	現状値 (R6年度末時点)
町民の定住意向	50.9%以上 (現状値以上)	52.2% (令和5年)

【評価指標 (KPI)】

評価指標	目標値 (R7年度実績)	実測値 (R6年度末時点)
いきいき地域提案事業相談件数 (産業創生課)	30件 (戦略期間累計)	10件
地域公共交通計画の策定 (町民環境課)	制定	計画策定に向けて実証試験開始
光回線エリアカバー率 (企画財政課)	100%	100%
合併処理浄化槽の世帯普及率 (町民環境課)	50%	52.73%
資源リサイクル率 (町民環境課)	55%以上	48.47%

KPI を達成できなかった場合はその理由	・いきいき地域提案型事業については、年2回の広報での町民周知を行っており、目標件数には満たないが毎年度の活用実績はあるため、一定以上の評価はできるものとする（産業創生課）。 ・資源リサイクル率については、生ごみやプラスチック等のリサイクル可能なゴミの量が少なかったため、リサイクル率が落ちた結果となった（町民環境課）。
実測値を踏まえた次期戦略における取組方針	・ゼロカーボンシティの実現に向け、地熱発電・太陽光発電の導入と温泉熱の更なる利活用を推進する（企画財政課・町民環境課）。 ・優れた観光のポテンシャルを最大限に活用し、インバウンド旅行者等をターゲットとした世界水準の観光地域づくりを推進する（企画財政課・産業創生課）【再掲】。 ・春松小学校・幼稚園及び羅臼幼稚園の空き施設について、地域の賑わい拠点や子育て支援の拠点としてリニューアルする（企画財政課）。